

JR 新宿ミライナタワーにおける、ICT を活用した次世代警備サービスの実証実験

～“人×デジタル”スマートホスピタリティあるサービスの創造でまちづくりに貢献します～

セントラル警備保障株式会社（以下、CSP、本社：東京都新宿区 代表取締役執行役員社長：澤本尚志）は、JR 新宿ミライナタワーにて ICT を活用した次世代警備サービスの実証実験に着手しました。この取り組みは、労働人口が減少していく社会課題の解決と高まるセキュリティニーズにお応えするため、警備ロボット活用による「省人化」、多機能型デバイスを活用する「均質化」、警備高度化設備活用による「高効率化」を通じ、次世代警備サービスの創造を目指したものです。

（概要）

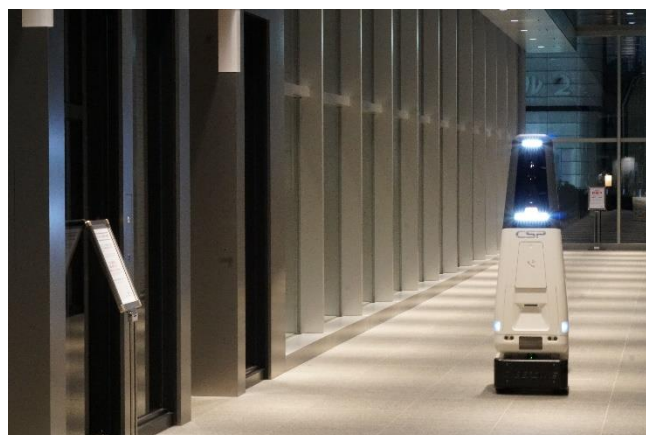
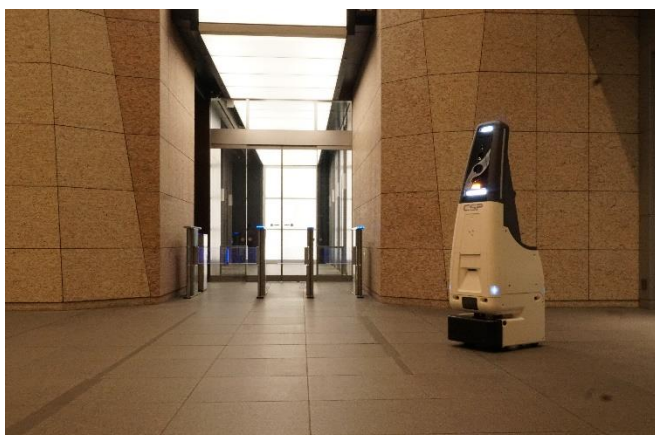
1 実施期間 2022年9月12日～2022年10月12日（予定）

2 実施場所 JR 新宿ミライナタワー

3 内 容

(1) 警備ロボット※1による監視・案内業務の実用性検証

オフィスビルのエントランスロビーにおいて、現在は警備員が行っている立哨や巡回を、警備ロボットが行うことの実用性を検証します。



(2) 多機能型デバイスによる遠隔地からの情報連携や映像共有の有効性検証

警備員が多機能型デバイス（スマートフォン）を装着し、警備員同士や防災センターとの連携において、通話の録音・テキスト化だけでなく、カメラによる視覚的な情報共有、位置測位、報告のワークフ

ロー化など、多岐にわたる業務をデバイスに集約することによる、警備業務の効率化・均質化を検証します。



多機能型デバイスのイメージ



デバイスを着用した警備員



防災センターイメージ



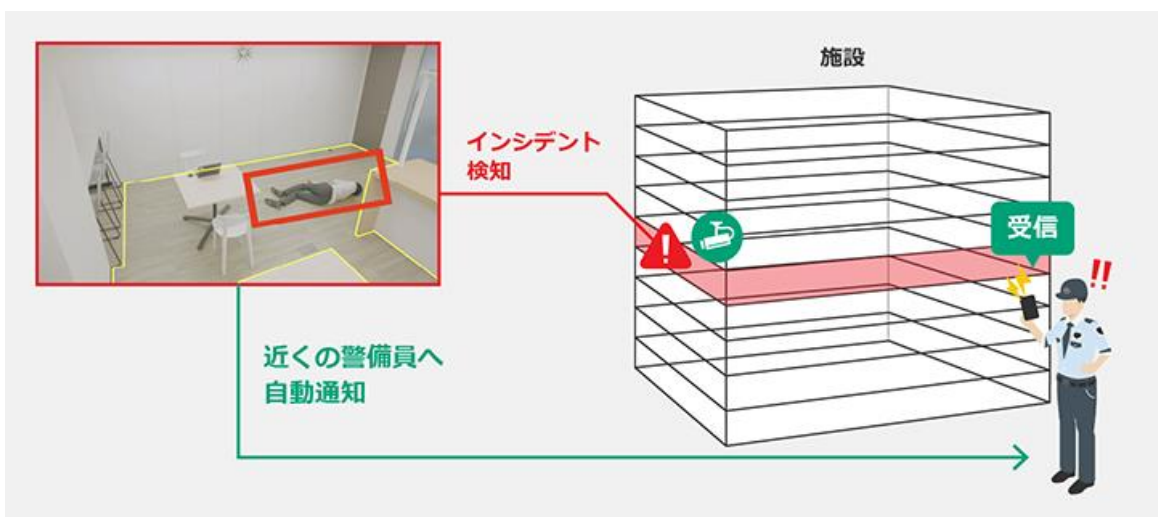
カメラによる視覚的な情報共有イメージ

(3) 警備高度化設備※2 による位置測位および自動指令の有効性検証

大規模開発物件においては、緊急時の駆付けに要する時間の短縮が求められます。開発中の警備高度化設備 CSP セキュリティプラットフォーム「梯」(かけはし) は、警備員の位置を常に測位し、発生した事象に対して最適な警備員の駆付け指示を自動で行うことが可能です。今回の実証実験においては、複数の位置測位技術の精度を検証するとともに、実証場所において模擬的な事象を発生させ、駆付け指示の自動化の有効性を検証します。

※CSP セキュリティプラットフォーム「梯」HP <https://www.we-are-csp.co.jp/corporate/securityplatform/index.php>

※CSP セキュリティプラットフォーム「梯」PV <https://vimeo.com/731257178>



CSP セキュリティプラットフォーム「梯」による位置測位～自動指令イメージ

【本件に関するお問い合わせ先】

セントラル警備保障株式会社 営業本部 品川開発推進部 電話(代表) 03-3344-1711

(参考)

※1 警備ロボットについて

当社の警備ロボットは、設定されたルートに従って自律的に巡回を行い、サーマル・3D カメラでとらえた映像を AI 技術で解析して現場の異常を適時に自動検知し、クラウド基盤を介して警備員が持つスマート端末へ通知を行います。異常を検知した際には、ロボットが光や音による警告を行うことも可能で、動くことなく現場を監視する立哨警備及び巡回警備にロボットを活用します。また、警備ロボットは AI 解析をしながら 6 時間以上の連続走行が見込めるバッテリーを標準搭載するほか、エレベーターとの連携機能を有しており、長時間連続走行機能を活かして、ロボットが複数フロアを夜間自動巡回することも可能です。警備員と警備ロボットがチームとなって警備業務を担うことにより、プロフェッショナルな人的警備と技術を結集したロボット警備を融合し、費用対効果の高い警備サービスの提供を目指します。

※2 CSP セキュリティプラットフォーム「梯」について

CSP セキュリティプラットフォーム「梯」は、安全・安心な街づくりを支えるサービスの創造を目的に開発されたサービスです。街の安全に関するさまざまな情報を「梯」に接続させることにより、AI を活用した監視、判断、指示など自動化されたオペレーションによる効率化、エリアマネジメントによる省人化を実現し、高いコストパフォーマンスを発揮します。また、街の安全に関わる膨大なデータを蓄積・分析することで、インシデント発生予兆をキャッチし、事案を未然に防ぐサービス構築を目指します。梯は、街の安全を通して「安全・安心な社会づくり」の実現に向けた未来へつながるサービスです。

